

トンネルヨイ 園芸

野菜

鮫島 國親

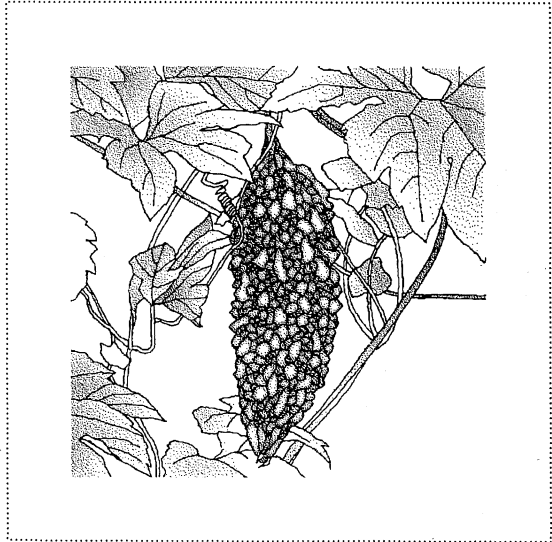
以前は南九州、沖縄で地域特産野菜として、夏場を中心に消費されていましたが、今では全国に知られるようになり消費が拡大しています。果実は紡錘形で果肉が厚く、ジュシーでにがみがやや弱いです。ビタミンC含量が特に多く、カロテン、ミネラル類、食物繊維も豊富で、食欲を増進させ夏バテ防止によいとわわれています。今回は一足早く収穫できるトンネル早熟栽培を紹介します。

発芽適温は二五―三〇度、生育適温は一七―二八度で、乾燥に強く多日照を好みます。土壌病害に弱いため接ぎ木が必要です。

ニガウリ（早熟栽培）

呼び接ぎが一般的で、台木にはカボチャ（新土佐）を用います。種まき時期は二―三月、定植期は三―四月です。ニガウリの種子は硬いので、種子のどがった方の先端をつめ切りなどで切断し、水に数時間から一晩漬けると発芽がそろいます。育苗日数三十日、本葉三枚程度で定植します。本葉は一平方分当たり苦土石灰百g、堆肥三t、緩効性の化学肥料百g（三要素15%の場合）を目安として施します。うね幅は三―五呎で、トンネル幅一―一・五呎に透明ポリをマルチします。株間は二呎くらいが適当です。トンネルは日中

1果に葉は5枚程度



三〇度、夜間一五度を目標に、つるを立ち上げる直前まで被覆し生育を促しましょう。トンネル除去と同時に、うね中央に高さ二呎の支柱を立て、ネットを一列張ります。親づるは八―十節で摘心します。子づるは四―六本、ネットに立ち上げ、ネット最上部で摘心もしくはそのまま伸ばします。孫づる以降は水平棚に誘引します。授粉は昆虫が活発になるまでは、雄花を用いた人工交配が必要です。子づる、孫づると順に着果させますが、着果数が多いと果形が乱れます。一果当たり五枚程度の葉数が必要です。古い葉や込み合った部分の葉は適宜除去しましょう。開花後二十日前後で収穫しますが、気温の高い時期は肥大が早く、収穫後果皮が黄化しやすいです。朝の涼しいうちに適期（長さ三十g、重さ二百五十g、直径六g程度）に収穫しましょう。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）



くらし 悠遊優